

【企業動向調査（製造業）概況】

令和2年10月～12月期の企業動向調査（市内製造業102社）を行った結果、業況判断指数D Iの平均は**15.6**ポイントで8期ぶりにプラスとなりました。

前期調査結果（令和2年7月～9月期：**▲ 20.0**ポイント）と比較して**35.6**ポイント好転しました。自社の景況感については、「変わらない」が41.6%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」が22.1%、「好転している」と「今はないが、今後好転が見込まれる」が13.0%、「悪化している」とした企業が10.4%となっています。

経営上の問題は、「半導体業界好調、とにかくコロナが終息しないと先が見えない、コロナ禍における営業拡大。技術的な人的確保、販売先の確保と取引先の倒産懸念。」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「食品」、「金属」、「一般機械」、「電気機械」、「木材家具」はプラスポイント、「その他業種」はマイナスポイントとなりました。

業種別の業況判断前期比D I

食品	30.0	（前期比：プラス 80.0）
金属	35.3	（前期比：プラス 41.2）
一般機械	14.3	（前期比：プラス 50.0）
電気機械	28.6	（前期比：プラス 28.6）
木材家具	16.7	（前期比：プラス 36.7）
その他業種	▲ 25.0	（前期比：マイナス 6.2）

2. 次期予想D I（令和3年1月～3月）

次期予想の平均は**▲ 27.0**ポイントで、今期調査結果の平均(**15.6**)より、42.6ポイント下回る予想となりました。

業種別の次期予想D I

食品	▲ 50.0	（今期比：マイナス 80.0）
金属	▲ 13.4	（今期比：マイナス 48.7）
一般機械	▲ 7.2	（今期比：マイナス 21.5）
電気機械	▲ 28.6	（今期比：マイナス 57.2）
木材家具	▲ 40.0	（今期比：マイナス 56.7）
その他業種	▲ 37.5	（今期比：マイナス 12.5）

3. 経営上の主な問題点

「受注の減少」が58.4%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が49.4%、「同業他社との競争激化」と「原材料・仕入品単価の上昇」と「納期の短縮」が20.8%、「技術力の不足」が18.2%、「労働力不足（量的なもの）」が14.3%、「製品販売価格の低下」が13.0%、「金融難」が7.8%、「人員過剰」と「取引先の海外シフト化」が2.6%、「為替相場の変動」が1.3%となっております。

企業動向調査

【令和2年10月～12月期〈4期〉】

【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は令和2年10月～12月期〈4期〉の業況について調査した。

【調査実施要領】

実施時期 令和3年1月

対象企業 須坂市内に本社または事業所を有する製造業企業 102社

回答企業数 77社（回答率 75%）

【調査結果】

自社業況判断（DI＝好転－悪化）

前期比：「好転」40.3%（前回22.7%）、「悪化」24.7%（前回42.7%）という割合でDIは15.6となり、35.6ポイント好転した。

前年同期比：「好転」28.6%（前回16.0%）、「悪化」48.1%（前回64.0%）という割合でDIは▲19.5となり、28.5ポイント好転した。

次期予想：「好転」16.2%、「悪化」43.2%という割合でDIは▲27.0（前回▲14.9）となり、前期より悪化を予想している。

受注引合（DI＝増加－減少）

前期比：「増加」39.5%（前回21.3%）、「減少」27.6%（前回44.0%）という割合でDIは11.9となり、34.6ポイント増加した。

前年同期比：「増加」25.0%（前回13.3%）、「減少」47.4%（前回65.3%）という割合でDIは▲22.4となり、29.6ポイント増加した。

次期予想：「増加」15.8%、「減少」42.1%という割合でDIは▲26.3（前回▲17.3）となり、前期より減少を予想している。

生産量（DI＝増加－減少）

前期比：「増加」38.2%（前回18.9%）、「減少」25.0%（前回43.2%）という割合でDIは13.2となり、37.5ポイント増加した。

前年同期比：「増加」30.3%（前回13.5%）、「減少」48.7%（前回64.9%）という割合でDIは▲18.4となり、33.0ポイント増加した。

次期予想：「増加」15.8%、「減少」40.8%という割合でDIは▲25.0（前回▲16.2）となり、前期より減少を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前期比：「低下」1.3% (前回2.7%)、「上昇」11.8% (前回8.1%) という割合でD Iは▲10.5となり、5.1ポイント上昇した。

前年同期比：「低下」1.3% (前回1.4%)、「上昇」21.1% (前回18.9%) という割合でD Iは▲19.8となり、2.3ポイント上昇した。

次期予想：「低下」0.0%、「上昇」26.3%という割合でD Iは▲26.3 (前回▲18.9)となり、前期より原材料・仕入単価の上昇を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」1.3% (前回4.1%)、「低下」5.3% (前回8.1%) という割合でD Iは▲4.0となり、前期と変わらない。

前年同期比：「上昇」4.0% (前回6.8%)、「低下」9.3% (前回9.5%) という割合でD Iは▲5.3となり、2.6ポイント低下した。

次期予想：「上昇」1.3%、「低下」9.3%という割合でD Iは▲8.0 (前回▲12.1)となり、前期より若干の製品販売価格の上昇を予想している。

資金繰り (D I = 好転－悪化)

前期比：「好転」10.5% (前回6.7%)、「悪化」21.1% (前回29.3%) という割合でD Iは▲10.6となり、12.0ポイント好転した。

前年同期比：「好転」9.2% (前回9.3%)、「悪化」34.2% (前回42.7%) という割合でD Iは▲25.0となり、8.4ポイント好転した。

次期予想：「好転」7.9%、「悪化」25.0%という割合でD Iは▲17.1 (前回▲16.0)となり、前期より資金繰りの悪化を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前期比：「増加」22.1% (前回8.0%)、「減少」24.7% (前回42.7%) という割合でD Iは▲2.6となり、32.1ポイント増加した。

前年同期比：「増加」18.2% (前回10.7%)、「減少」39.0% (前回56.0%) という割合でD Iは▲20.8となり、24.5ポイント増加した。

次期予想：「増加」16.9%、「減少」31.2%という割合でD Iは▲14.3 (前回▲8.0)となり、前期より労働時間の減少を予想している。

収益率 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」26.0% (前回13.5%)、「低下」31.2% (前回47.3%) という割合でD Iは▲5.2となり、28.6ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」20.8% (前回10.8%)、「低下」42.9% (前回63.5%) という割合でD Iは▲22.1となり、30.6ポイント上昇した。

次期予想：「上昇」10.4%、「低下」32.5%という割合でD Iは▲22.1 (前回▲28.3)となり、前期より収益率の上昇を予想している。

経営上の問題点（複数回答）

1位	受注の減少	(→ 58.4%)
2位	人材不足（技術者等質的なもの）	(→ 49.4%)
3位	同業他社との競争激化	(→ 20.8%)
3位	原材料・仕入品単価の上昇	(↑ 20.8%)
3位	納期の短縮	(↑ 20.8%)
6位	技術力の不足	(↓ 18.2%)
7位	労働力不足（量的なもの）	(↑ 14.3%)
8位	製品販売価格の低下	(↓ 13.0%)
9位	金融難	(↑ 7.8%)
10位	人員過剰	(↓ 2.6%)
10位	取引先の海外シフト化	(↑ 2.6%)
12位	為替相場の変動	(↓ 1.3%)

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし
「↓」 前回の順位から下降

業種別自社業況判断／食 品

前 期 比：「**好転**」 60.0%（前回 10.0%）、「**悪化**」 30.0%（前回 60.0%）という割合で D I は 30.0 となり、80.0 ポイントと大幅に好転した。

前年同期比：「**好転**」 30.0%（前回 10.0%）、「**悪化**」 60.0%（前回 80.0%）という割合で D I は ▲ 30.0 となり、40.0 ポイント好転した。

次 期 予 想：「**好転**」 10.0%、「**悪化**」 60.0%という割合で D I は ▲ 50.0（前回 0.0）となり、前期より大幅な悪化を予想している。

業種別自社業況判断／金属機械

前 期 比：「**好転**」 52.9%（前回 23.5%）、「**悪化**」 17.6%（前回 29.4%）という割合で D I は 35.3 となり 41.2 ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」 35.3%（前回 17.6%）、「**悪化**」 47.1%（前回 58.8%）という割合で D I は ▲ 11.8 となり、29.4 ポイント好転した。

次 期 予 想：「**好転**」 13.3%、「**悪化**」 26.7%という割合で D I は ▲ 13.4（前回 ▲ 29.4）となり、前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／一般機械

前 期 比：「**好転**」 42.9%（前回 14.3%）、「**悪化**」 28.6%（前回 50.0%）という割合で D I は 14.3 となり、50.0 ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」 21.4%（前回 0.0%）、「**悪化**」 50.0%（前回 85.7%）という割合で D I は ▲ 28.6 となり 57.1 ポイント好転した。

次 期 予 想：「**好転**」 21.4%、「**悪化**」 28.6%という割合で D I は ▲ 7.2（前回 ▲ 7.1）となり、前期と同程度と予想している。

業種別自社業況判断／電気機械

前期比：「**好転**」42.9%（前回38.5%）、「**悪化**」14.3%（前回38.5%）という割合でDIは28.6となり、28.6ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」50.0%（前回46.2%）、「**悪化**」28.6%（前回53.8%）という割合でDIは21.4となり、29.0ポイント好転した。

次期予想：「**好転**」7.1%、「**悪化**」35.7%という割合でDIは▲28.6（前回15.4）となり、前期より悪化を予想している。

業種別自社業況判断／木材家具

前期比：「**好転**」50.0%（前回20.0%）、「**悪化**」33.3%（前回40.0%）という割合でDIは16.7となり、36.7ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」50.0%（前回20.0%）、「**悪化**」50.0%（前回40.0%）という割合でDIは0.0となり、20.0ポイント好転した。

次期予想：「**好転**」20.0%、「**悪化**」60.0%という割合でDIは▲40.0（前回▲20.0）となり、前期より悪化を予想している。

Q10 (1) 日銀松本支店が12月14日に発表した、企業短期経済観測調査（短観）によると、全産業の業況判断指数(DI)は、マイナス26で前回調査(9月)から18ポイント上昇し、2期連続で改善しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」と「今はないが、今後好転が見込まれる」13.0%、
「変わらない」41.6%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」22.1%、
「悪化している」10.4%

(2) (1)で「好転している」、または「悪化している」と答えた方にお伺いします。
具体的な影響についてご記入ください。

A 「来年度の受注の動きが少ない。長期的な開発案件はあるが、来年上期にはつながらない。」、「車載関係の受注に加え、5G関係の受注が増加。プレス部品の受注も回復。」、「受注環境が悪いまま、好転の兆しが見えない。」、「前期がかなりよかったため比較すると悪いが、通常通りではある。」、「コロナ禍による先行き不透明感」、「通信設備・パソコン関係の需要が増大。」、「今までSTOPしていたものが動きだしている為です。」、「昨年10月から12月間は政府のキャンペーンなどがあり良くなってきました。」、「半導体、自動車関連部品の生産量が増加傾向」、「コロナで営業活動ができない。」、「緊急事態宣言の影響が1月からは極端に悪化し始めている。」、「消費の伸びが見受けられない。」、「コロナで家族の夕食、昼食の営業マンの夕食、会合の減で宴会の夕食が減、

「中国経済の回復」、「コロナ対策で対応に迫られた大手企業の動向が見えない。決算期に入るが、駆け込みの予兆がない。設備費出し渋りもある。」、「コロナ不況の底は10月に打ったという感じがしている。」、「コロナでヨーロッパの輸出ストップ」等。

Q11 新型コロナウイルス感染拡大影響から、業績好転はいつ頃になると予想しますか。

A 「わからない」42.9%、「2年以上3年未満」36.4%、「1年未満」19.5%、「5年以上」1.3%

Q12 1都2府8県に緊急事態宣言が再発令されましたが、貴社の事業活動にどのような影響が出ていますか。(複数回答あり)

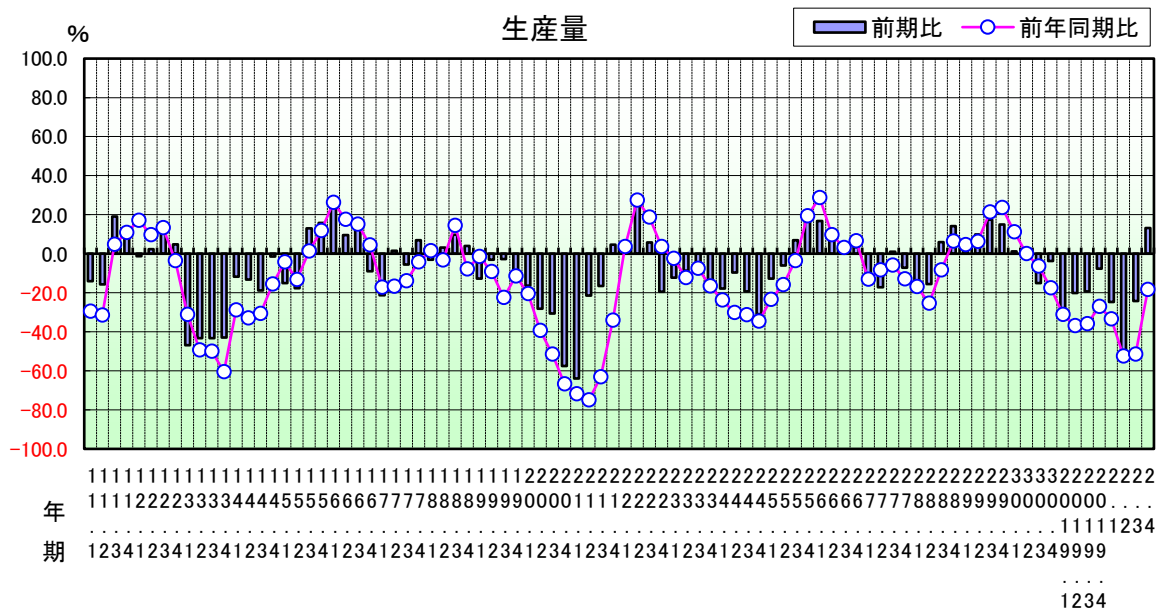
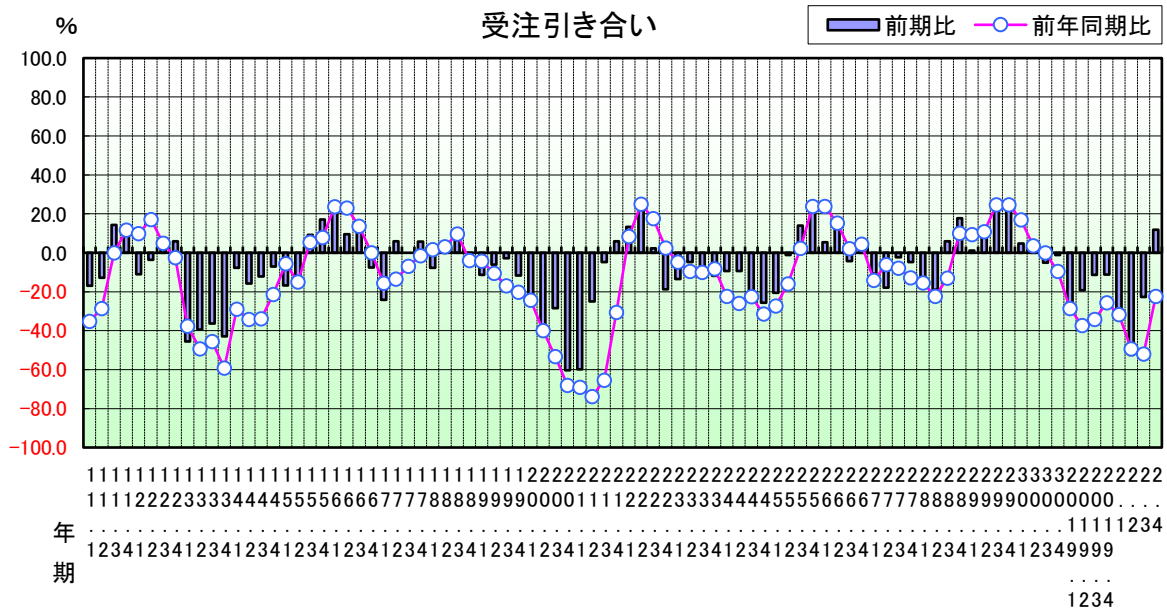
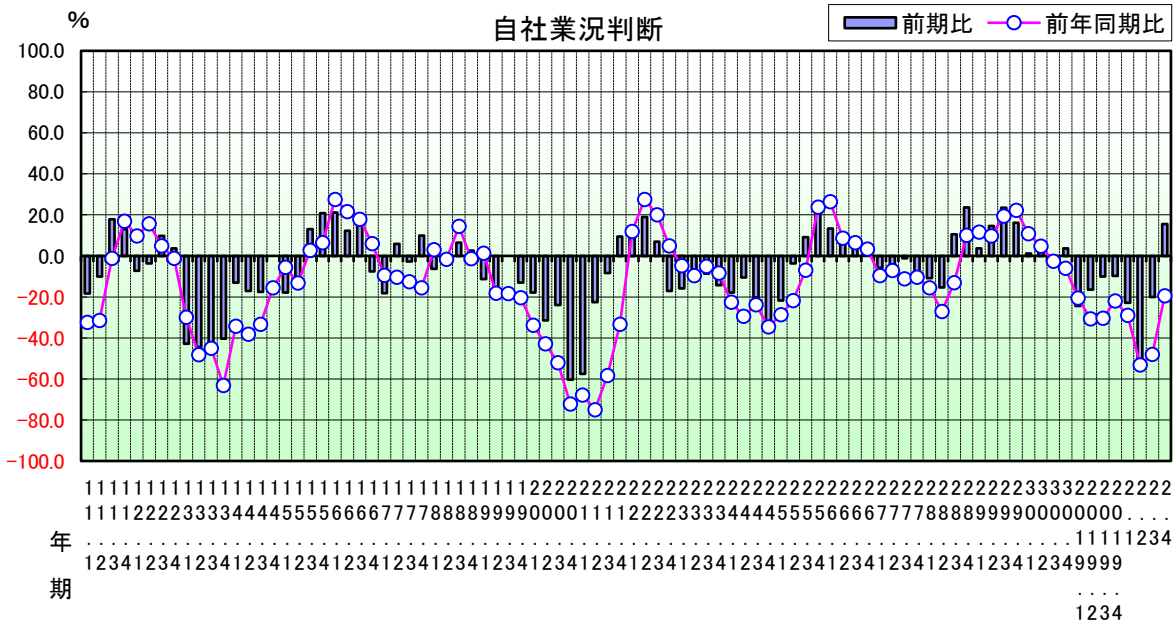
A 「出張を取りやめている」44.5%、「オンラインで出張会議等を実施」27.3%、「その他(影響なし、受注の減少、在宅勤務、自宅待機)」7.3%、「テレワークの実施」5.5%、「部品調達ができない」2.7%、「無回答」12.7%

Q13 2021年は貴社にとってどのような年になると予想しますか。

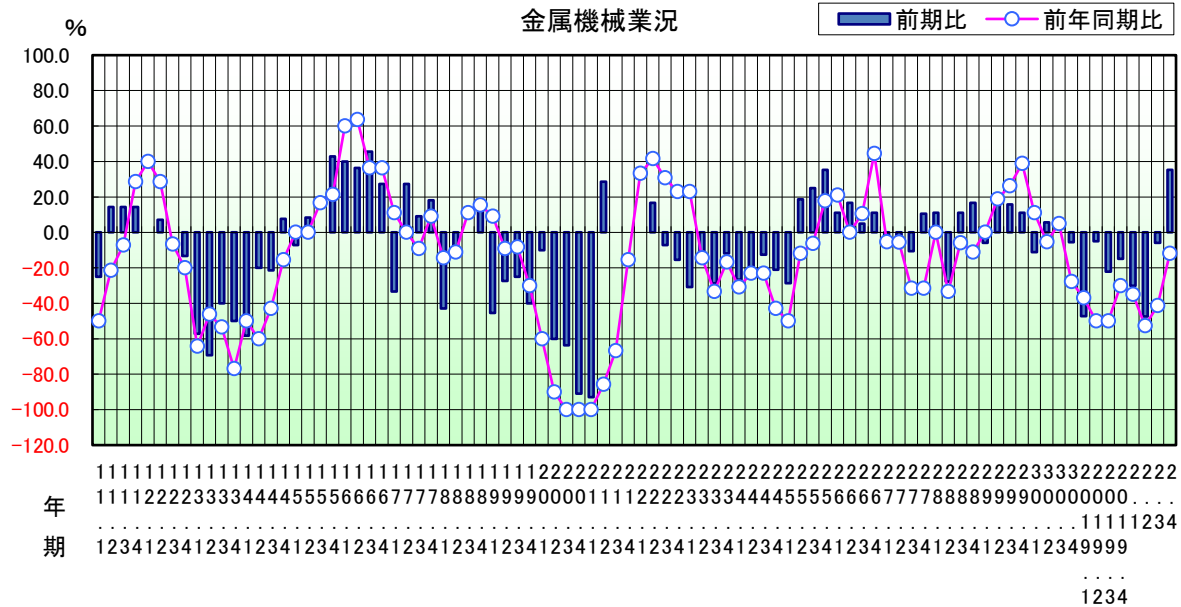
A 「どちらともいえない」59.7%、「悪い」23.4%、「良い」11.7%、「無回答」5.2%

Q14 具体的な問題について

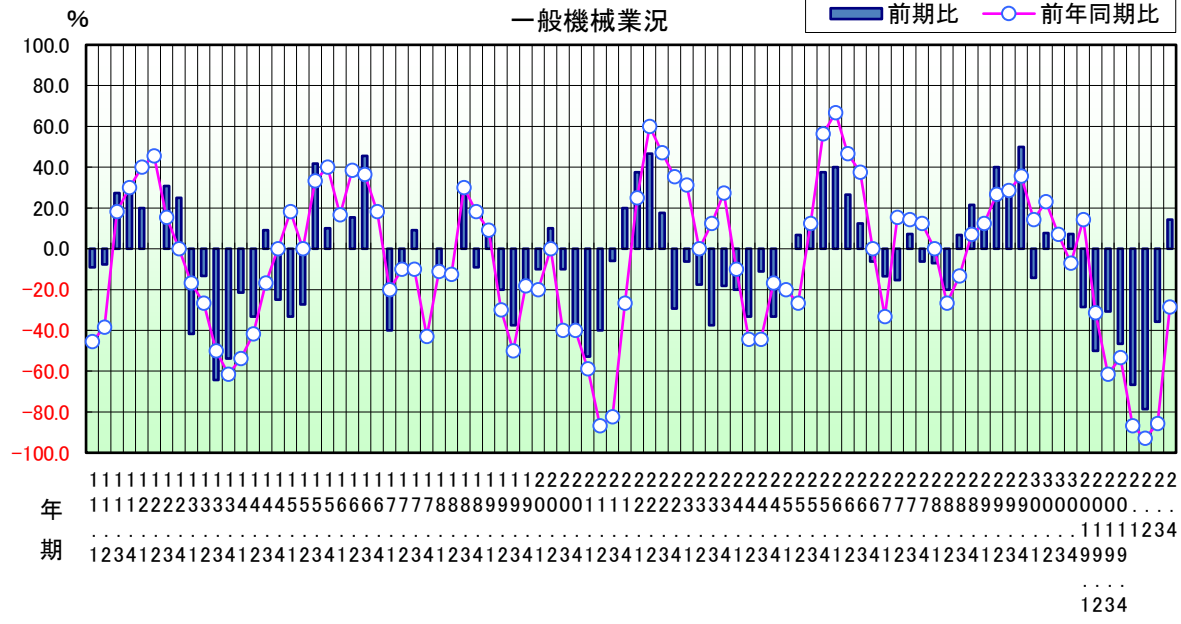
A 「駐車場がほしい。」、「コロナ禍によりこれまでの対面営業がしづらく、営業の取り組み方の変更を考えていかなければならない。」、「人手が不足しています。」、「コロナ禍で先が不透明」、「コロナ感染症の終息するかどうかによる。」、「10~11月はGOTO特需で一時的に売上が伸び、4~6月の凹みを一部相殺できたが、12月~1月にかけて受注が少なくなってきた。」、「材料の入手が困難になってきている。コロナによる材料供給の仕組みが変わってしまっている。材料がなくて生産できないものが増えてきそうである。」、「12月までは徐々にコロナ禍の需要低迷から脱却の方向に向かっていたが、12月下旬から年末年始の需要を含め極端に低迷している。」、「脱カーボン、グリーンエネルギーなどで設備環境の変化が想像される。大きな変化が予想されるので、今まではという考えだと対応が難しくなるので情報収集力を高めたい。」、「新型コロナウイルスの影響次第です。」、「社員の高齢化」、「外食産業の廃業、観光ホテルの廃業が怖い。」、「全体の技術向上。事業継承と技術継承」、「非鉄材料価格の高止まりと品薄感」、「求人募集。高齢化」、「新型コロナウイルスのワクチンがどのような効果があり、経済にどのような影響があるのか、注視していきたいと思います。」等。



金属機械業況



一般機械業況



電気機械業況

